

内閣総理大臣 池田 勇 人 殿

日本学術会議会長代理 山 泉 昌 夫

国家予算のなかにおける研究費一般と本会議が勧告した特殊分野の調査
研究費との関係について(勧告)

標記のことについて、本会議第36回総会の議に基づき、下記のとおり勧告します。

記

本会議は、今期の総会における審議の結果に基づき、特に多くの経費を伴うべき諸科学の分野における調査研究の推進方を政府に勧告した。

この種特殊分野の研究の成果をあげるためには、例えば、教官研究費、科学研究費などはもとより、一般的な研究費による研究の発展が伴わねばならないことはいうまでもない。

したがって、本会議は、あえてこのさい、一般的な科学研究の充実、発展を期するため、如上の研究費全般が画的に増額することを、とりわけ切望するものである。その実現によつて、特殊分野の研究に重点的な経費を投ずることの効率を高らしめるものと信じる。

よつて政府は、この点に深く留意し、国家予算全体のなかにおける研究費予算の編成を誤ることなく、その全体的増額のために、積極的に善処されたい。

内閣総理大臣 池田 勇 人 殿

日本学術会議会長代理 山 泉 昌 夫

宇宙科学の推進計画の実施と宇宙科学研究所(仮称)の設置について(勧告)

標記のことについて、本会議第36回総会の議に基づき、下記のとおり勧告します。

記

宇宙空間およびその中に存在する各種の天体を対象とする宇宙科学の研究は、ロケットおよび人工衛星の発達によつて急速に発展しつつあるが、わが国においては、従来地上よりする各種の観測とこれを基とする物理学的研究を活発に進めるとともに、この基盤に立つて観測ロケットの開発と、これによる超高層の観測ならびに人工衛星の追跡によつて、さらに一層研究を推進し、両者相まつて世界の学術の発展に寄与してきた。しかし、宇宙科学の進歩は極めて急速であり、これに対処するために、宇宙科学のそれぞれの分野において、将来に対する具体的かつ詳細な年次計画を検討立案した結果から見ると、種々の面において不十分の点があり、なお一段の方策を講ずる必要があると考えられる。その具体的方策の要点は、

- (イ) 一般地上観測を主体とする研究、ならびに宇宙工学の基礎的研究の拡充強化
 - (ロ) ロケットその他を利用する研究を組織化するための宇宙科学研究所(仮称)の設置
- の2点に集約される。よつて、わが国の宇宙科学を振興するために必要な上記の方策の実施を要望する。